

ページ 2

Basic Information / 基本情報

Duration / 開催期間

説明：～年～月 から ～年～月まで

2013年6月から2013年11月まで

Staff / スタッフ

説明：青年会議所メンバーの参加人数

例：何人 ○○member

37MEMBERS

Sponsors / 支援者

説明：青年会議所以外のメンバーがいる場合のみ記載してください

例：○○市ボランティア団体等

大学教授（国境問題の専門家）、2自治体、NPO法人

Budget 予算

説明：ドルで表示してください。

例：1万円なら one hundred dollar

US\$15,000

Profit / Loss 利益／損失

説明：基金を集めること以外は、0にしてください

0

In Which UN MDG best fit (if Apply)? UN MDGs の該当項目（もしあれば）

説明：

Who is benefited? 誰の為に？

説明：活動エリアに住み暮らす人々 人

名古屋市に通う高校・大学の学生及び名古屋市に住み暮らす人々220万人

Objective 目的

説明：(例1) 子ども対象の事業をベースにして、参加者とメンバーの意識を変革を促し、前向きな変化を創り出すため

<目的 1>

次世代の市民が、自国（日本）の国境（領土・領海・E E Z）を知り、国境問題に関する自国と相手国双方の意見の違いを正確に理解すること。

<目的 2>

次世代の市民が、国境問題を通じて OMOIYARI を行動規範とする重要性を認識すること。

これらの目的達成は他国との紛争を解決し、恒久的世界平和に繋がる。

①名古屋市を中心に日本に暮らす 4030 人への調査の結果、自国の主張する国境の範囲を正確に理解していたのはわずか 3.18%

②自国の主張する国境の範囲を正確に理解していないと、国境に関する相手国の主張との違いを理解することはできない

③国境に関する自国と相手国の主張の違いを理解することができないと、自国の市民と相手国の市民が共感することができず、国境問題の平和的解決に向けた行動をすることができない

④国境問題を平和的に解決するためには、相互理解→共感→行動という OMOIYARI を行動規範にしなければならない

・自国の主張を理解した上で、相手国の主張にも耳を傾けるという相互理解が重要である



・相手国との相互理解は、相手国と共感に繋がり、平和的解決に向けた市民の民主的行動に繋がる



・平和的解決に向けた市民の民主的行動によって国境問題が解決でき、恒久的世界平和に繋がる

Overview 概要

説明：必ず結果と合致しているはず

①調査（2013年6月～11月）

・ JCI 名古屋は名古屋市を中心に日本に暮らす 4030 人を対象に日本の国境（領土・領海・E E Z）の範囲を知っているか調査を実施した

・ JCI 名古屋は日本の国境の範囲をクリアファイルにして市民に配布した

・ JCI 名古屋は国境問題の相手国（韓国、中国、ロシア）に日本との国境問題の捉え方と歴史教育についての調査を実施した

②セミナーの開催（2013年7月）

- ・ JCI 名古屋は青少年及びその親 1464 人に対し当事国全ての領土・領海に対する歴史教育の違いと問題の捉え方の違いを知るためのセミナーを実施した
- ・ JCI 名古屋はパネルに写真やマンガで日本と他国の領土・領海に関する歴史、政府見解を展示した
- ・ JCI 名古屋メンバーが領土・領海問題に関する現地取材を行い、現地取材に基づいた映像を上映した

③大学教授との対談及びパネル展示（2013年11月）

- ・ JCI 名古屋は国境問題を平和的に解決するために大学教授との対談を実施した
- ・ JCI 名古屋は①の調査の結果を発表した
- ・ JCI 名古屋は①の調査の結果分かった問題点について大学教授の意見をもらった
- ・ JCI 名古屋は市民に対し国境問題について自国と相手国との意見の違いをよく知ることが大事だと発表した
- ・ JCI 名古屋はパネルに写真やマンガで日本と他国の領土・領海に関する歴史、政府見解を展示した
- ・ JCI 名古屋メンバーが領土・領海問題に関する現地取材を行い、現地取材に基づいた映像を上映した

④パンフレットの配布（2013年11月）

- ・ JCI 名古屋は調査・研究結果をまとめたパンフレット 1500 冊を市民に配布した

Result 結果

説明：複数の短い文章になるように注意してください

目的がどのくらい達成できたか書いてください

上記の結果の想定外の結果を書いてください

上記の結果の確認方法を書いてください

検証結果を簡潔に書いてください

<結果 1>

次世代の市民が、自国の国境の範囲を知り、国境問題に関する自国と相手国双方の主張の違いを正確に理解した。

<結果 2>

次世代の市民が国境問題を通じて自国と相手国相互の主張の違いを知り、OMOIYARI を行動規範とする重要性を理解した。

<結果1の根拠>

・JCI名古屋は調査を行った市民 4030 人に日本の国境（領土・領海・EEZ）の範囲をクリアファイルにして配布した。クリアファイルを受け取った市民は「国境の範囲を全く知らなかったのので、これを機会に興味を持ち勉強する必要がある」と語った。

・JCI名古屋は調査・研究結果をまとめたパンフレット 1500 冊を市民に配布し、市民はそのパンフレットを見て国境問題に関する自国と相手国双方の意見の違いを理解した。

・本事業に参加した市民のアンケート結果

「自分の国のことなのに、他人事のように思っていたことを知った。領土について勉強し、正しく領土問題と向きあえるようにしたい。」

「日本の領土のアンケートも全然わからなかったし、パネル展示を見ている知らないことが多かったのので勉強になりました。」

「領土、領海がどのくらいの場所までなのか、日本の北方領土について、深く良くわかった。」

「領土の範囲がよく分からなかったけど、話しを聞いてどこまでが範囲か分かった」

「この講座を通して、より正確に領海を知ることができました。」

「パネルも、歴史から今の他の国の人たちの考えなど、簡潔にまとめてあり、分かりやすかったです。」

・大学教授のコメント

「日本と相手国との国境問題に関する意見の違いを知ることができるとても良い事業だと思います。今後も継続して行ってほしい。」

<結果2の根拠>

・本事業に参加した市民のアンケート結果

「お互いに相互理解を深める事が大切だと私は考えます。」

「正しい歴史と相手国のこと、主張を知ることから始めたら...と思っています。」

「日本の考えも大切だが、ロシア韓国、中国など、ほかの国の意見も大切なものだということがわかった」

・大学教授のコメント

「日本と相手国との国境問題に関する意見の違いを知ることができるとても良い事業だと思います。今後も継続して行ってほしい。」

Actions Taken 行動

説明：

2013年

4月 事業企画

6月4日～6日 JCI名古屋メンバーによる香港現地調査

6月8日 JCI名古屋メンバーによる名古屋での調査

6月14日～16日 JCI名古屋メンバーによる韓国現地調査

7月4日～8日 JCI名古屋メンバーによる北方領土現地調査

7月13日～15日 名古屋市内の大学でセミナー開催

9月6日 JCI名古屋メンバーによる東京での調査

9月28日～30日 JCI名古屋メンバーによる沖縄現地調査

10月11日～13日 JCI名古屋メンバーによる釜山（韓国）・壱岐津島（日本）現地調査

11月17日 大学教授との対談開催、パネル展示
パンフレットの配布

12月 お礼状送付、事業の検証作業

Recommendations 考察や推奨

目的のうちどの部分が達成されたのか？

達成できなかった部分は、何か？

それは、なぜか？その改善策は？

<目的を達成した点>

- ・名古屋市を中心とする4030人の市民に日本の国境問題の範囲を理解してもらった。
- ・次世代の市民を中心とするセミナー参加者1464人に国境問題に関する自国と相手国の歴史教育の違いと国境問題の捉え方の違いを理解してもらった。
- ・対談とパネル展示では、新たに618人の市民に自国と相手国の双方の主張を理解することが平和的解決のために重要だと理解してもらった。
- ・1500人の市民にパンフレットを配布して国境問題に関する自国と相手国の歴史教育の違いと国境問題の捉え方の違いを市民に理解してもらった。

<一番のポイント>

- ・3.18%しか理解していなかった日本と相手国との国境問題の主張について、多くの市民が理解した。
- ・多くの市民が日本と相手国との国境問題に関する主張の違いを知ったことで、自分たちの問題として国境問題を考えるようにPOSITIVE CHANGEできた。
- ・その結果、多くの市民が、日本の市民と相手国の市民が相互理解し、共感し、民主的行動を起こすこと、つまり、OMOIYARIを行動規範として国境問題を平和的に解決することが重要だと理解した。

- ・今後、国境問題を考えるとき、市民は OMOIYARI を行動規範とし、平和的な解決を目指して積極的に行動する市民へと POSITIVE CHANGE することができる。
- ・そして、POSITIVE CHANGE した市民が、次世代へと OMOIYARI を行動規範とすることの重要性を伝え、POSITIVE CHANGE の連鎖が広まっていく。〈改善策〉
- ・より多くの市民に参加してもらえる広報を考える。

〈一番のポイント〉

- ・自国（日本）と相手国との領土・領海に関する意見の違いを知った上で、相互理解を通じた問題の解決を図ることが大事だと市民が理解したことが重要である。
- ・今後、領土・領海の問題を考えるとき、市民が OMOIYARI を行動規範として、平和的な解決を行うべきだと POSITIVE CHANGE することができる。

Best Local empowerment program

ページ 3

Objectives Planning Finance and Execution

目的・計画・財務・実施

What were the objectives of this program

このプログラムの目的は？基本情報に詳述して下さい

<目的 1>

次世代の市民が、自国（日本）の国境（領土・領海・E E Z）を知り、国境問題に関する自国と相手国双方の意見の違いを正確に理解すること。

<目的 2>

次世代の市民が、国境問題を通じて OMOIYARI を行動規範とする重要性を認識すること。

これらの目的達成は他国との紛争を解決し、恒久的世界平和に繋がる。

How does this program align to the JCI Plan of Action

この事業は、どのように J C I の活動計画と合っていますか？

活動計画のどの部分に合致しているのか？合致している部分の詳述してください。

*JCI Action plan のシートを参照

この事業は、以下の 3 点で JCI の活動計画に合致する。

- ・日本の国境問題というという世界が注目する時事的な話題に焦点をあてて、会員が JCI ミッションを現在の事象に結びつけて考えることを促す点
- ・本事業は、内部、外部を問わず 7700 人以上の多くの人々に向けて、OMOIYARI を行動規範とすることの重要性を示す点
- ・市民が OMOIYARI という JCI VALUE を現在の問題の永続的な解決策と考え、JCI VALUE に関する理解を深めた点

Was the budget an effective guide for the financial management of the project?

予算は事業の財務管理のための効果的なガイドになりましたか？

予算上の工夫と、予算の内訳の概算を記述してください

- ・次世代の市民が OMOIYARI を行動規範とすることの重要性を理解するためには、今の市民への啓蒙が必要である。
- ・多くの市民へ日本の国境（領土・領海・E E Z）の範囲を啓蒙できるよう予算の 90% を市民への啓蒙活動の費用に充てた。

How does this project advance the JCI Mission and Vision?

どうやってこの事業は、J C I のミッションと、ヴィジョンを推進しましたか？

ビジョンとミッションに分けて明確に詳述してください

JCI ミッションの推進

<目的 1 に関して>

・JCI 名古屋は、次世代が、自国の国境の範囲を知り、国境問題に関する自国と他国双方の主張の違いを正確に理解して POSITIVE CHANGE する機会を提供する。

<目的 2 に関して>

・JCI 名古屋は、次世代が、OMOYARI を行動規範として国境問題の平和的解決に向けて積極的に行動するために POSITIVE CHANGE する機会を提供する。

JCI ヴィジョンの推進

・JCI 名古屋は、市民に、本事業を通じて OMOYARI を行動規範とする重要性を示す。その結果、市民は OMOYARI を行動規範とする重要性を認識し、平和的解決に向けて ACTIVE CITIZENS となった市民が次世代へ OMOYARI の重要性を伝えるネットワークを生む

ページ 4

By number,how many members were involved in this program?

事業のスタッフは、何人？数字で記載してください

37MEMBERS

By percentage how many members of the Local Organization were involved in this program?

LOM メンバーの参加率は、何パーセントですか？%で記載してください

30%

Describe the main roles of the participating members in this program

このプログラムで参加しているメンバーの主要な役割を簡潔に記述してください

- ①事前のアンケート調査（2013年6月～11月、37人のJCI名古屋メンバーが名古屋を中心に実施）
- ②国境問題の現地調査（2013年6月～10月）
 - ・香港（2人のJCI名古屋メンバーが6月4日～6日に実施）
 - ・韓国（3人のJCI名古屋メンバーが6月14日～16日に実施）
 - ・北方領土（2人のJCI名古屋メンバーが7月4日～8日に実施）
 - ・沖縄（2人のJCI名古屋メンバーが9月28日～30日に実施）
 - ・釜山（韓国）・壱岐津島（日本）（4人のJCI名古屋メンバーが10月11日～13日に実施）
- ③セミナーの企画・開催・検証（2013年4月～12月、37人のJCI名古屋メンバー）
- ④対談の企画・開催・検証（2013年4月～12月、37人のJCI名古屋メンバー）
- ⑤調査結果の発表（パネルで展示）（2013年11月17日、37人のJCI名古屋メンバー）

ページ5

Community Impact 社会への影響

How did the Local Organization measure community impact for this program

どのように、LOMは、このプログラムのために地域社会への影響を測りましたか？

<目的1の達成による地域社会への影響>

・JCI名古屋は、事前調査を行った市民4030人に日本の国境（領土・領海・EEZ）の範囲をクリアファイルにして配布し、その際の市民へヒヤリングを行った。クリアファイルを受け取った市民は「領土・領海の範囲を全く知らなかったの、これを機会に興味を持ち勉強する必要がある」と語った。

・JCI名古屋は、セミナーによって、日本の国境の範囲を理解できたかどうかセミナー参加者へアンケート調査を行った。

・JCI名古屋は、セミナー参加者へアンケート調査を行い、国境問題に関する自国と相手国の言い分を理解できたことを測った。

<目的2の達成による地域社会への影響>

・JCI名古屋は、セミナー参加者に OMOIYARI の重要性についてアンケート調査を行った。

Describe the actual community impact produced by this project

このプロジェクトによって発生される実際の地域社会への影響を記述してください

- ①本事業に参加した次世代が、自国の国境の範囲を正確に理解し、国境問題の解決のために OMOIYARI が重要であることを学んだ。
- ②本事業に参加した次世代は、家で家族（市民）に OMOIYARI の重要性を伝え、OMOIYARI の重要性がコミュニティの市民に広がった。
- ③国境問題に関心を寄せる他の団体へも OMOIYARI の重要性が広がった。

<①の根拠>

- ・ JCI名古屋は調査を行った市民 4030 人に日本の国境（領土・領海・EEZ）の範囲をクリアファイルにして配布した。クリアファイルを受け取った市民は「国境の範囲を全く知らなかったので、これを機会に興味を持ち勉強する必要がある」と語った。
- ・ JCI名古屋は調査・研究結果をまとめたパンフレット 1500 冊を市民に配布し、市民はそのパンフレットを見て国境問題に関する自国と相手国双方の意見の違いを理解した。

<②の根拠>

- ・ 事業には、次世代だけでなく、親も一緒に参加しており、OMOIYARI の重要性を家族に話す機会を持った。
- ・ 事業に参加した次世代のアンケート
「今回知ったことを私生活に生かしていきたい。」

<③の根拠>

- ・ 現地調査の過程で、他団体からもっと調査用紙を欲しいと要求があり、OMOIYARI の重要性を広める機会となった。

ページ 6

Impact on Local Organization LOM への影響

How did the Local Organization benefit from running this project?

どのように LOM は、この事業を運営することから利益を得たか？

①行政からの評価向上

現地調査で JCI 名古屋メンバーが訪問した石垣市（沖縄）と根室市（北海道）が本事業を評価し、本事業に協力を行った

②市民からの評価向上

JCI 名古屋は、本事業により、7712 人の市民に対し、国境問題を平和的に解決するために OMOIYARI が重要だと示し、JCI 名古屋の認知を広めた。

③OMOIYARI 運動の推進

・次世代は、本事業により、OMOIYARI を行動規範とすることを学び、OMOIYARI 運動に理解を示した。

・JCI 名古屋のメンバーは事前を含めてプログラムの実行過程で OMOIYARI 運動への理解を深めた。

How did the program advance the JCI Mission?

どのように J C I ミッションを推進したのか？

・JCI 名古屋は、次世代が、自国の国境の範囲を知り、国境問題に関する自国と他国双方の主張の違いを正確に理解する機会を提供した。

・その結果、次世代は相互理解→共感→行動という OMOIYARI 運動のプロセスを学んだ。

・JCI 名古屋は、OMOIYARI 運動のプロセスを学び、次世代が OMOIYARI を行動規範として国境問題の平和的解決に向けて積極的に行動するようになるため、POSITIVE CHANGE する機会を提供した。

How did the project advance the JCI Vision?

どのようにして J C I ヴィジョンを推進したのか？

JCI 名古屋は、市民に、本事業を通じて OMOIYARI を行動規範とする重要性を示した。その結果、市民は OMOIYARI を行動規範とする重要性を認識し、ACTIVE CITIZENS となった市民が次世代へ OMOIYARI の重要性を伝えるネットワークを生んだ

ページ 7

Long-term Impact of the Program プログラムの長期的な影響

What is the expected long-term impact of this project?

このプロジェクトの期待される長期的な影響は、なんですか？

OMOIYARI を行動規範とする重要性を認識する次世代が増えることで、国境問題の平和的解決に向けた民主的行動を起こす ACTIVE CITEZENS が増え、国境問題が平和的に解決される。

国境問題がなくなることにより、究極的には世界平和実現への影響を期待する。

What changes Would you make to improve the results of this project?

このプロジェクトの結果を改善するために、どんな改善策がありますか？

①国境問題を考えるに当たっては、中立的な立場に立って平和的解決を模索することが必要である。

そのためには、自国と相手国の双方の主張を十分に聴取する必要がある。

今後は、相手国の国境問題の専門家や相手国の政府への調査も必要である。

②本事業を長期的継続的に行っていくためには、他団体もプログラムを実行できる形でパッケージ化することが必要である。